

# 昔ながらの街並みや風景が今に残る

## 1. 大山千枚田「鴨川」

大山千枚田は、千葉県鴨川市の標高100m前後の斜面に、東西600mにわたって375枚の棚田が連なり、日本で唯一雨水のみで耕作を行っている天水田です。農林水産省の日本の棚田百選に認定されており、文化庁の文化的景観の保存・活用事業の対象地域にもなっています。

大山千枚田は房総半島のほぼ中央に位置し、東京から一番近い棚田として知られ、山里の美しい景観として観光スポットにもなっています。



2011年撮影



地理院地図  
大山千枚田付近



## 2. 城下町「土浦」

土浦は、土浦城の城下町として、また、霞ヶ浦にも近く水運の拠点として、また旧水戸街道の宿場町としても栄えました。

土浦城は、室町時代に築かれ、江戸時代に段階的に増改築されて形を整えました。現在は、本丸周辺だけが亀城公園として残っています。

土浦宿は、土浦城の東側から南東側に位置し、長さ約700m程の範囲にあり、本陣跡は山口家・大塚家の二箇所あったとされますが、現存していません。更に、土浦宿の北方約1km程のところに真鍋宿(現在の真鍋3丁目あたり)があったとされます。



2008年撮影



迅速測図「土浦」他  
明治30年(1897)





# 新幹線50年、沿線開発と縮まる時間

東海道新幹線が開業し、今年10月1日で50年を迎えます。開業時(1964年)、それまで特急“こだま”で6時間30分だった東京-大阪間が新幹線“ひかり”で4時間に、翌年には3時間10分に縮まりました。現在、東京-新大阪間の所要時間は、新幹線“のぞみ”で2時間25分と更に短縮されています。

2045年、リニア新幹線開業時は、品川-新大阪間が1時間7分で結ばれる予定です。



## 新大阪駅周辺の土地利用の変化



東海道新幹線の「新大阪」駅は、用地買収の手間を省くため、東海道本線と北方貨物線が交差するところに建設することになりました。建設以前や開業当時は、周辺に田畑や空き地がありました。



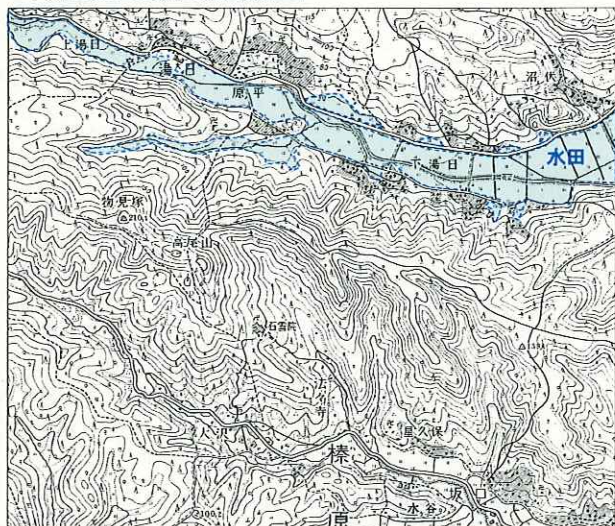
1972年3月に、山陽新幹線新大阪-岡山間が開通し、その後博多へ延伸され、現在は鹿児島中央と直通運行されています。このころになると、田や畑、空き地は、住宅やビルなどに利用されていきました。



# 新幹線の上に空港が出来た

静岡空港は、静岡県島田市と牧之原市にまたがる地方空港で、東海道新幹線第一高尾山トンネルの真上にあります。2009年6月4日に開港し、2,500メートルへの滑走路延長工事が同年8月27日に完成しました。空港は、標高130mほどの台地の上にあり、もともとは主に山林でした。台地の麓には集落が点在しており、新幹線ができる前と大きな変化は地図上では読めません。

1958年発行の地形図

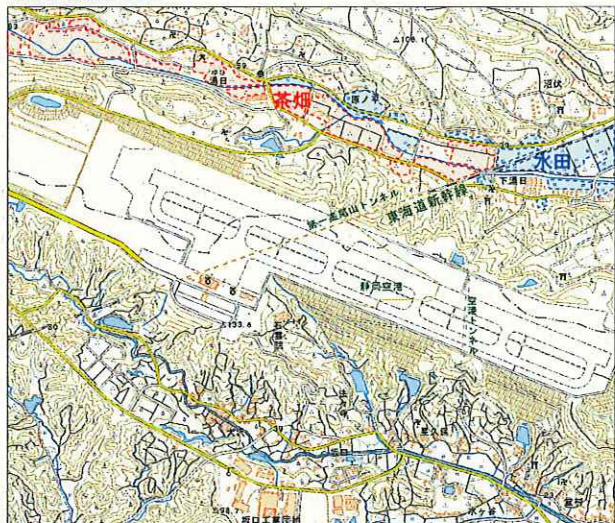


1962年撮影の空中写真



図中央の山地北側の「湯日」集落付近は、南の低地に水田、その北側の傾斜が始まる場所に樹木に囲まれた集落が点在しています。1962年撮影の空中写真には、東海道新幹線の工事現場が写っています。

地理院地図



2013年撮影の空中写真



2009年に開港した静岡空港は、東海道新幹線のトンネルの上にあります。上下の2つの地図の大きな違いは、この空港と新幹線、そして、空港南側に新しくできた工業団地です。空港北側の湯日地区はあまり変化がないように見えますが、地図をよく見てみると、以前は水田だったところが、現在は茶畑になっています。